

Y-2

井上神楽

開催時期

現在は開催されておられません

会場

本倉神社 / 大塚神社



井上神楽は江戸時代中期に始まり、井上地区の守護神である本倉神社で7年に1度、4月8日に開催される祭礼に奉納してきたほか、地域の祝い事で舞が披露されました。

実施の主体は青年会でしたが、大東亜戦争（戦後、太平洋戦争）の激化とともに伝承されなくなり、戦後も途絶えたままでした。上山田下婦人会が山田長持唄の復活に乗り出したのに触発されて、地元民が復活をめざし、昭和47年（1972）に復活しました。

井上地区では単に「神楽」と呼ばれているが、井上神楽は獅子神楽の流れを汲むもので、その後結成された「井上神楽保存会」によって受け継がれました。獅子頭はケヤキで作られたもので、ユーモラスな舞が特徴で、青年が中心となって踊ります。

井上神楽に光が当てられたのは、平成6年（1994）3月、市の無形民俗文化財に指定されてからでした。市内5か所に伝わっていたという同系の神楽のうち、井上神楽はほぼ原形を残している点が指定の理由でした。

「長獅子」と「神楽七芸」のなかの二つの演目が、毎年4月8日の本倉神社祭礼時に演じられていました。

会場

